

航空事故調査報告書

航空事故調査委員会議決

委員長 相原康彦

委員 勝野良平

委員 加藤 晋

委員 水町守志

委員 山根皓三郎

1 平成10年9月10日議決 アビアシュド式ミストラルJ-R532L型
超軽量動力機
大分県直入郡久住町 平成10年5月31日

2 平成10年9月24日議決 個人所属
アレキサンダー・シュライハー式ASK23B型
JA2384
埼玉県妻沼滑空場 平成10年6月30日

型 式 : アビアシュド式ミストラルJ-R532L型超軽量動力機 (複座)
識別番号 : JR1231 ((財) 日本航空協会識別番号)
発生場所 : 大分県直入郡久住町有氏字広内1765番地の牧場
発生日時 : 平成10年5月31日 11時30分ごろ

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

同機は、平成10年5月31日、熊本県阿蘇郡産山村の場外離着陸場を離陸し、同場外離着陸場の北東約11km付近を飛行中、11時30分ごろ、雑木林に墜落。

搭乗者数	操縦者1名
搭乗者の死傷	操縦者 重傷
航空機の損壊	機体 大破、火災発生なし

1.2 航空事故調査の概要

主管調査官が、平成10年6月1日～3日現場調査、6月17日機体調査を実施。意見聴取を行った。

2 認定した事実

2.1 乗組員に関する情報

操縦者	男性 49歳
(財) 日本航空協会技量認定	No. 8469 (平成5年3月5日)
型式の限定	舵面操縦型
総飛行時間	約230時間
同型式機による飛行時間	約50時間

(上記時間は操縦者の口述による。)

2.2 航空機に関する情報

2.2.1 航空機

型 式	アビアシュド式ミストラルJ-R532L型
総飛行時間	約500時間
事故当時の重量	約275kg (仕様書最大重量370kg)

(上記時間は操縦者の口述による。)

2.2.2 エンジン

型 式

ロータックス式532型

総使用時間

約500時間

(上記時間は操縦者の口述による。)

2.2.3 機体調査

- (1) 操縦系統は、墜落時の損傷を除き、異常を認めず。
- (2) エンジンを機体から取り外し試運転を実施、異常を認めず。
- (3) 機首部圧縮変形
- (4) プロペラは、3枚のうち2枚が破断。

2.3 現場調査結果

2.3.1 事故現場は、久住高原内の標高約800mの牧場西側傾斜地の雑木林で、機体は、機首を概ね北方向に向けて倒立した形で墜落。周囲の雑木に衝突痕はなく、ほぼ垂直に落下と推定。(写真参照)

2.3.2 事故に至るまでの経過は、操縦者によれば、概略次のとおり。

気圧高度約850mで飛行中、エンジンに不調を感じ、スロットル・レバーを操作、調子を見たが不安を感じた。場外離着陸場(標高約710m)は、その東側に谷があるため、北東方向の久住高原に不時着をすることとし、牧場スロープへ不時着を試みたが、操縦不能となり墜落。この間、速度計は見ていなかった。

また、牧場内の事故現場近くにいた目撃者によれば、概略次のとおり。

同機は、牧場上空を左旋回で一周。その後、同目撃者の東側を南から北へ超低空で通過後、左上昇旋回、同牧場西側の谷上空へ戻った後、機体が左に傾き、機首から急角度で墜落。

事故機が牧場を低空で通過した時、エンジン音は聞こえていた。風は感じなかった。(付図1参照)

2.4 気象に関する情報

事故現場の南西約1.1kmに位置する当該機が離陸した場外離着陸場の気象は、操縦者及び操縦者が所属していたクラブ員によれば、次のとおり。

天気 晴れ、視程 良好、風向 西、風速 4～6m/s

3 事実を認定した理由

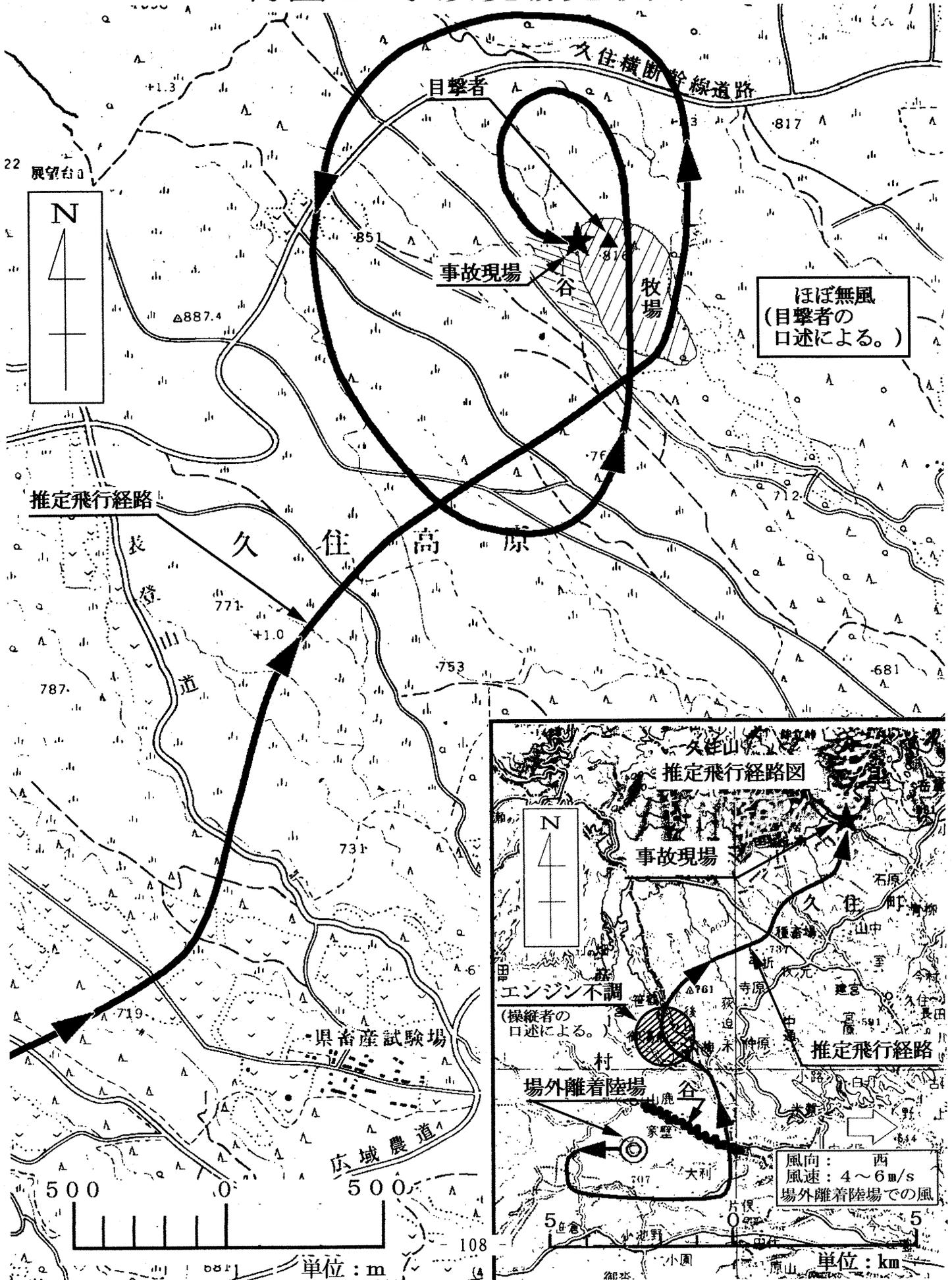
同機は、地上痕跡、機体の損傷状況、操縦者及び目撃者の口述から、場外離着陸場を11時20分ごろ離陸、事故発生場所付近で低い対地高度で左旋回中、11時30分ごろ失速に陥り、機首から墜落したものと推定。

なお、調査の結果、エンジンには異常なかったものと推定。

4 原因

本事故は、同機が低い対地高度で旋回中、失速に陥ったため、墜落したことによるものと推定。

付図1 事故現場見取図



付図2 アビアシュド式
ミストラルJ-R532L型三面図

単位：m

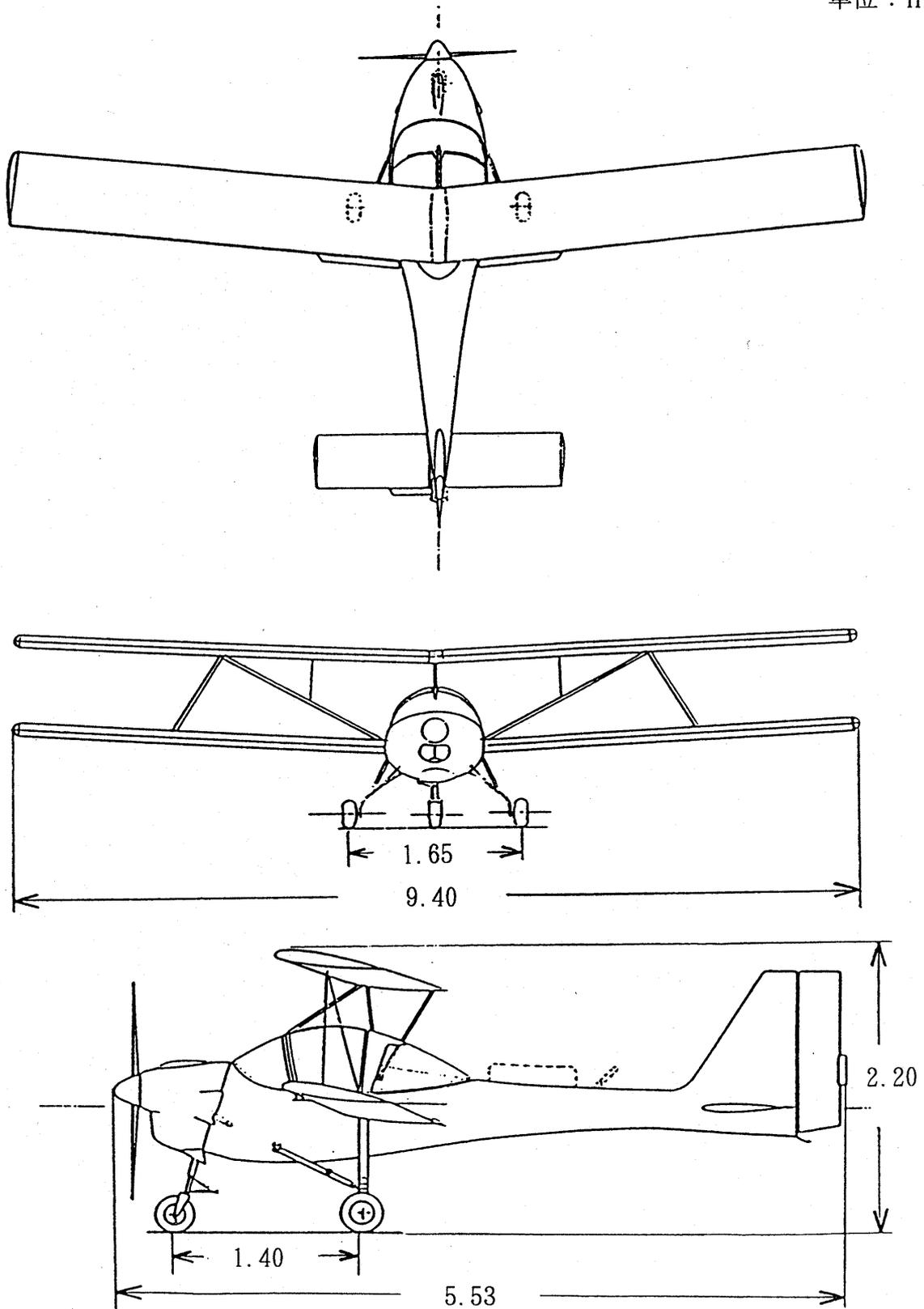


写真 事故機
操縦者救出直後



回収中

